

## 《薬局サーベイランスコメント》

『第3週（1月16日～22日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は100万人を超えたが第4週は更に患者数が増加し、流行のピークに差し掛かりつつあるものと予想される』

2017年1月24日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

薬局サーベイランスによると、今シーズン（2016/2017年シーズン）の2017年第3週（1月16日～22日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は前週（第2週）の推定値（622,745）よりも大幅に増加して1,056,239となり、今シーズン初めて100万人を超えました（図1）。休日明けの月曜日（1月23日）の推定受診者数は299,433とやはり今シーズンの最高値を大幅に更新しており、第4週（1月23日～29日）は更に患者数が増加するものと予想されます。

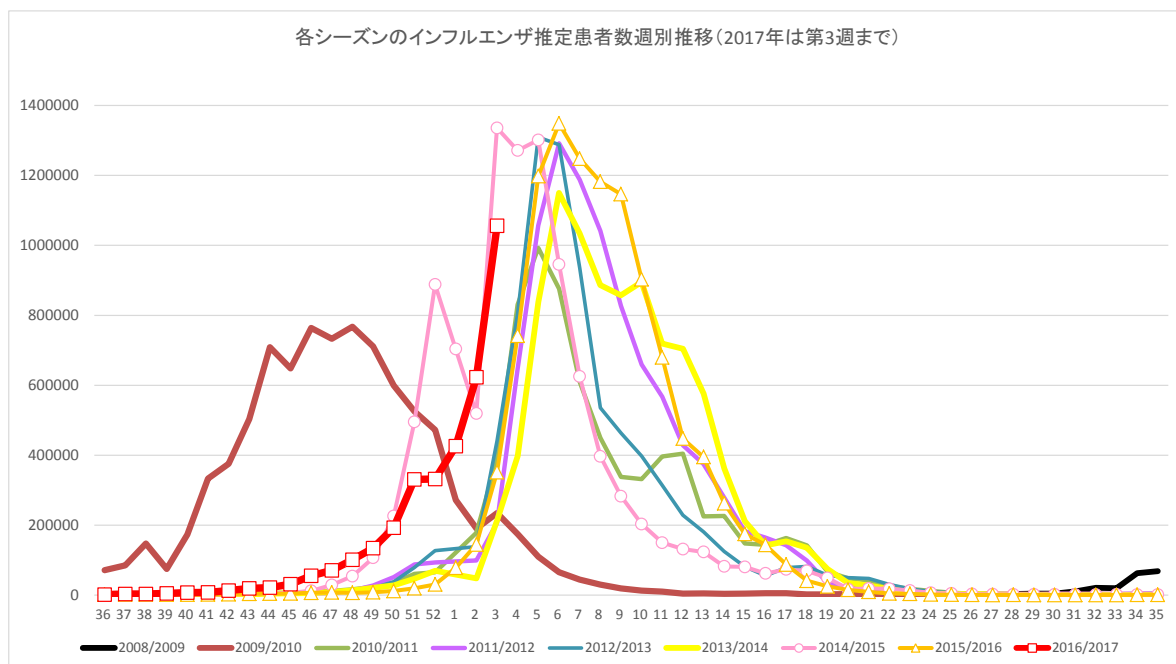


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移（累積の推定受診患者数=3,434,357）

2016年第36週から2017年第3週までの累積の推定患者数は3,434,357であり、日本の人口推計値（2016年11月1日現在、1億2695万人）で換算すると、累積の罹患率は2.71%となりました。罹患率を年齢群別で比較すると10～14歳（7.52%、413,435

人)、5～9歳(7.47%、396,577人)、15～19歳(5.64%、337,237人)、0～4歳(5.08%、261,277人)、20～29歳(3.19%、405,521人)、30～39歳(2.65%、402,661人)、40～49歳(2.37%、448,921人)、50～59歳(2.11%、324,390人)の順となっています(図2)。第3週は特に5～14歳群の患者数の増加が著しく、インフルエンザの流行の中心となっているものと考えられます。

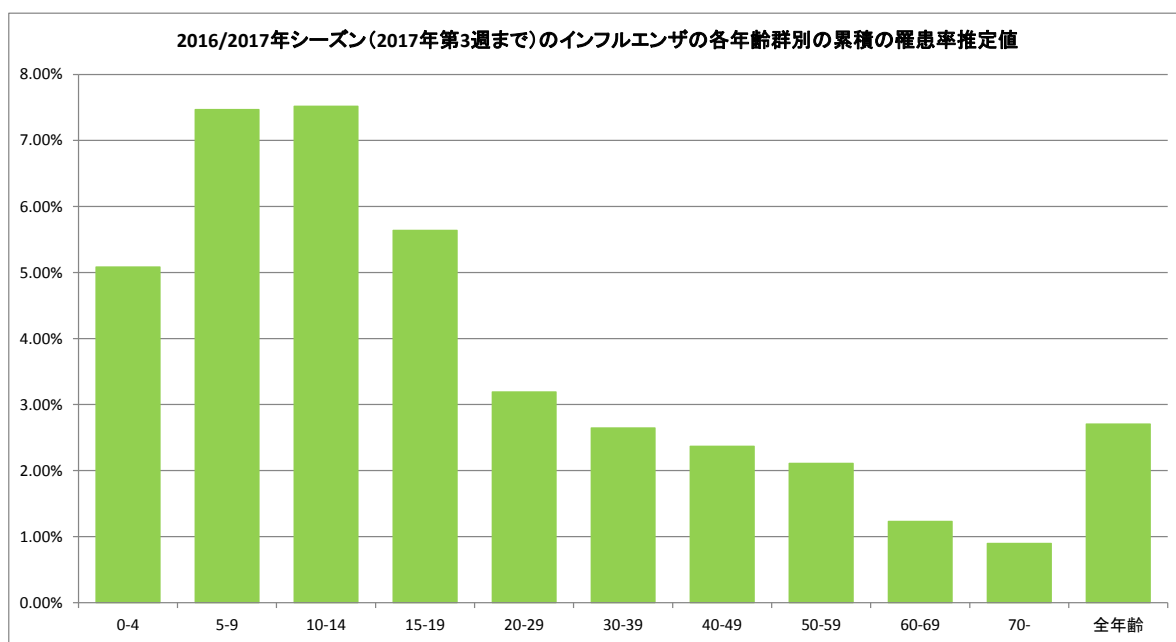


図2. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値(2016年第36～2017年第3週)

各都道府県別の2017年第3週の人口1万人当たりの1週間の推定患者数をみると、福井県、広島県、徳島県、大分県、岡山県、宮崎県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、奈良県、兵庫県の順となっており、秋田県を除く46都道府県で増加が見られています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(1,372検体解析)は、A/H3(A香港)亜型が90.0%と大半を占めており、次いでA/H1pdm 6.6%、B型3.4%の順となっています。

2017年第3週のインフルエンザの推定受診者数は100万人を超えましたが第4週は更に患者数が増加し、おそらく流行のピークに差し掛かりつつあるものと予想されます。インフルエンザの患者発生の推移には十分な注意が必要です。